月報
岡崎の教育

平成25年5月1日
5月号
発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想 …… 1
東海光学株式会社代表取締役会長
古澤　武雄氏
この人に聞く …… 2
酪農教育ファーム認証牧場
片岡牧場三代目
片岡　建二氏
羅針盤 …… 2
保健体育科指導員
清水佐知子
ふれあい …… 3
フランクフルト日本人国際学校
天野　幸輔
特　集 …… 4
誕生　翔南中学校
～春咲の丘のエコスクール～
お知らせ …… 6
フォト・ヒストリー … 8
わらび採り（平成７年）
この本を …… 8

教育随想

常に夢抱いて挑戦続けよ

東海光学株式会社
代表取締役会長
古澤　武雄　氏

昭和四十二年、東海光学に入社しました。社名の「東海光学」というのは、創業者の故古澤静が「東海地方で一番の眼鏡レンズ工場になる」という思いを込めて名付けました。

しかし、私自身、入社した時からそれ以上の目標、つまり日本一、世界一のレンズ工場にしたいという思いをもっておりました。

当時のメガネレンズはガラス素材が主流でしたが、私にとって大きな転機となったのは、プラスチック製眼鏡レンズの登場でありました。

ヨーロッパでは、昭和四十五年頃から使われるようになっていましたが、日本では大手メーカーでさえ研究開発を開始しようとしていたところでした。だから、中小企業では技術的に全く異なるため、無理だと言われておりました。

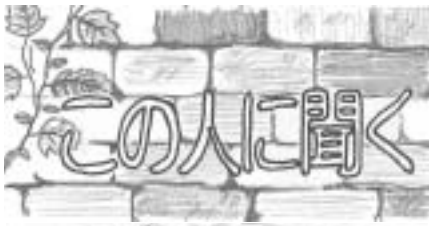
そのような時、「将来は必ずプラスチックの時代になる」という強い思いと先輩からの後押しもあり、社内で研究開発に着手し、昭和五十七年、プラスチックレンズの専門工場を新設し、中小企業として初めて本格生産を開始いたしました。現在では、九十九％以上がプラスチックレンズとなり、当時ガラス製レンズを作っていた中小メーカーは、日本はもとよりヨーロッパ、アメリカでも姿を消してしまいました。

プラスチックレンズに取り組んだからこそ、今の東海光学があり、新しい流れが生まれる前に次の事業に取り組まなければ、企業は生き残れないと思います。

今から五十年前、『二十一世紀への階段』という技術の未来予測（一三五項目）の本が発行されました。そして今、その内容を検証してみると、四十％にあたる五十四項目が実現されておりました。しかし、倫理上問題のある技術は実現されていないことを考えると、夢の実現に大切なのは、「社会の側」で評価されることであるようです。

子供たちにも、ぜひ、「社会の側」から評価される夢を持ち、挑戦し続けていただきたいと思います。

（ふるざわ　たけお）



命の大切さを感じてほしい

酪農教育ファーム認証牧場
片岡牧場三代目
片岡　建二　氏

「牧場の朝は早いです。早朝五時半から準備し、六時半には搾乳を始めます。すべて搾乳するのに、二時間はかかります。その後、一頭ずつ餌やりをし、糞を片付けます。どれも力のいる作業ですよ。生き物が相手の仕事なので、三六五日休みはありません。」

山間の田園地帯に建つ牛舎の中で、片岡さんは静かに語った。

豊富学区にある片岡牧場では、現在七十頭ほどの乳牛を飼育している。幼い頃から動物が大好きで、牛舎の中で遊びまわる子供だったそうだ。しかし、高校三年生の夏まで家業を継ぐ気はなかったという。

「小学生の頃、家が牧場ということでからかわれることが多かったのです。だから、牧場を継ぎたくないと思っていました。」

転機が訪れたのは、高校三年生の夏休みだった。

「学校の代表として北海道へ研修に行き、酪農家でファームステイしたのです。それまでは家にいても、酪農の仕事を丸一日することはなかったのですが、初めて一日通して牧場の仕事をしました。そこで、やっぱり何だかいいなと思ったのです。研修から帰ってきて、進路を決める時に、北海道の帯広畜産大学に行こうと決意しました。」

大学在学中に酪農教育ファームという取組を知り、興味をもつようになった。

「酪農教育を研究している友人の卒業論文を見て、酪農教育の意義や必要性を強く感じました。これから大人になって消費者となる子供たちに、酪農を正しく理解してもらうことは、お互い絶対にプラスになると感じたのです。」

そう感じたのには、子供の頃に布石があったようだ。

「三十年以上前から、親が小中学校の交流体験を受け入れていました。僕も子供たちの様子を間近で見たり、体験後に送られてきたお礼の手紙を読んだりして、子供たちの変化を感じていました。こういう活動がこれからは必要だと思って、スタートしました。」

二十一歳で就農し、翌年酪農教育ファームの認証を受けた。酪農教育ファーム認証牧場は、岡崎市内では唯一である。搾乳体験や出前授業を通して、酪農への理解を広める活動に力を入れて、今年で十年になる。

「初めは牛乳が好きではなかったり、牛は怖いと思っていたりした子供たちが、牛が好きになったとか、牛乳を大事に飲みたいと思ったとか、少しでも考え方が変わるとうれしかったですね。」

今年度は、豊富小学校や形埜小学校で実践を行った。豊富小学校は、三年生総合の授業で酪農をテーマに一年を通して学習した。形埜小学校は、二年生生活科の野菜作りに関連し、牛の糞が牛糞肥料になっていく過程を見学したり、実際に搾乳体験をしたりするなど、子供たちは初めて酪農に触れた。

「給食の牛乳パック一個分に、どれだけの人が関わっているか考えてみてほしいと、子供たちにはよく話をするのです。今まで食べてきた米や牛乳、野菜などに、どれだけの人が関わっていたのか、これから食べる物にどれだけの人が関わっていくのかを考えてほしいと思います。」

そう語る表情には、消費者のために、命を育み守る生産者としての誇りがあふれていた。

「牛を通して、食べ物の大切さ、命の大切さを感じてほしいのです。私は、酪農などの農業は、食物そのものの命を守ると同時に、人間が生きるための土台を作る職業だと思っています。」

温かい眼差しの片岡さんに、いつの間にか牛がすり寄ってきていた。

（氏　　名　かたおか　けんじ
生年月日　昭和五十六年九月十四日
住　　所　岡崎市滝尻町在住）

「できた」の笑顔のために

保健体育科指導員　**清水佐知子**

体育の授業は、「できた」の笑顔にたくさん出会うことができる。しかし、笑顔ばかりでもない。

A先生の「跳び箱・頭跳ね跳び（中学二年生）」の授業後、B子が涙を流していた。私は、疑うことなく「できた」喜びの涙であると思った。授業の序盤、恐怖心から、B子は跳躍どころか助走の一歩目さえも踏み出せていなかった。しかし、終盤には、ロイター板を力強く蹴り、跳び箱上で体を転回させているのだ。一時間で、よくそこまでの動きを身に付けたと驚いた。ところが、B子の涙の理由が、また驚きである。「イメージ通りに跳べなくて悔しい」というのだ。ここまで動きを高めながらも、なぜ、喜びより悔しさが先に立つのか。

助走の一歩が踏み出せずにいる時に、仲間がたくさんの声を掛けてい

ドイツでのいのちの授業

フランクフルト日本人国際学校
天野　幸輔

小学部六年生は、修学旅行で毎年ダッハウ収容所を訪問する。収容所では最も古く、政治犯中心の施設で、殺戮（りく）ではなく強制労働が、主な目的であった。ドイツでは、授業で取り上げ、収容所を訪問するのは、高校生の年齢に達してからである。だから、小学部の子供たちが訪問するには、周到な準備が必要である。「怖かった」で終えるのは論外で、「ドイツはひどいことをした」といった他人事で終わらないようにしたい。想像力を働かせて「自分がその場にいたら何ができたか」「ナチスに抵抗した、心ある人の勇気はいかほどだったか」「自分の良心に忠実に生きるとはどれほど大変か」と、自分のこととして考えさせたいと思った。

そこで、子供たちの成長を見取るため、道徳の授業を修学旅行前後に一回ずつ設定した。どちらも、残忍なナチスの支配下で信念に生きた主人公を扱った資料を取り上げた。

旅行前は、良心にしたがって生きるように生徒に言っていたチェコの老先生が、自らのナチス批判によって殺される話である。

「ナチスの脅しで考えを変えるのは自分が死んでしまうのと同じと老先生は考えた」と授業では的を射た発言があった。しかし、表面的な印象だった。

収容所の訪問では、児童は説明に真剣に聞き入ったりメモを取ったりしていた。旅行のしおりへの記述には「入口前で僕が立っていたのが引込線の駅だったので驚いた」「むちを見るのはつらかった」「人体実験の写真が怖かった」「焼却炉ではヒトラーは残酷だと思った」といったその場の印象の記録が目立った。十二歳の児童には、人類の負の遺産はやはり重すぎるのだろうかと戸惑った。

そこで、旅行後の国語科「平和についての意見文」を書く過程で、個別指導を繰り返し、自分の心に何度も問い返させた。

一か月後の道徳の資料は、亡命を望むユダヤ人の訴えを聞いて、ビザを発行し続けた杉原千畝（ちうね）の話である。「ユダヤ人の代表の話を聞いたとき、杉原さんは何を考えただろうか。」一気に手が挙がった。

「ここで助けないとナチスと同じ」「領事代理だからこそできることがある」といった意見は、自分のこととしてとらえたからこそ、出たものであろう。「二十四時間絶えることのないあの恐怖をせめて半分にでもできないか」という発言には、見学が反映されていた。

さらに終末では資料を離れ「君たちにとって見学にはどんな意味があったのか」と問いかけた。「私たちの収容所見学は、杉原さんがユダヤ人代表の話を聞いたのと同じ体験だったのではないか」。実物を見て、虐殺を訴える声が自分にも聞こえてきたのだと言う。沈黙後のこの一言で、見学には時間と空間を越えるほどの価値があったと知った。

た。子供たちの言葉は、指摘にとどまらない。「助走なしに、まずここ（ロイター板手前）で、踏切だけやってみよう」「次は、このコース（跳び箱の代わりにマットを丸めたもの）で、回ってみよう」「着手は、このポイントを目標にして」など、つまずきをクリアするための練習の場が、的確に示されていく。これは、子供が動きのメカニズムを理解している証である。

その日の学習課題は、「腰角を意識して大きな頭跳ね跳びをしよう」であった。教師が設定した十のコースから思い思いの練習を選択し、次々にステップアップしていく。終盤には、ほぼ全員がダイナミックに跳ねている。その変容を目の当たりにしたB子は、周りと自身の跳躍の違いを実感する。B子にとって、回るだけでは、「できた」にはならないのだ。悔しさは、「分かる」からこそ生まれた思いであった。

A先生は、「できる」ために「分かる」にこだわる。分からせるために動きを分割し、必要となる動きや感覚を徹底的に練習させたのだ。

一週間後、手紙が届いた。B子の見事な跳躍の瞬間と、とびきり笑顔の写真のおまけつきであった。

誕生　翔南中学校
～春咲の丘のエコスクール～

▲ 翔南中学校に登校する生徒たち

岡崎市立南中学校の大規模化によって生じる、教育上・学校運営上の諸問題を解消するために、この四月、岡崎市立翔南中学校が開校した。校名となる「翔南」には、「南中学校からさらに南へ羽ばたく」という意味が込められている。場所は、ＪＲ岡崎駅の南、針崎町に位置し、岡崎小学校の全卒業生と、羽根小学校と小豆坂小学校の一部の卒業生が通うことになる。市内二十校目の市立中学校として、生徒数五百十名、十七学級（特別支援学級二学級）で、スタートを切った。

翔南中学校は、文部科学省のエコスクールパイロット・モデル校として認定され、環境を考慮した特色ある施設が盛り込まれた学校として建設された。文部科学省が示すエコスクール設置上の留意点として、次の三点が挙げられている。一つ目は、「学習空間、生活空間として、健康で快適であり、環境への負荷を低減させる設計・建設となっていること」。二つ目は、「耐久性やフレシキビリティに配慮し、自然エネルギーを有効活用すること」。三つ目は、「施設を環境教育の教材として活用すること」である。翔南中学校は、エコスクールの事業条件として、「太陽光発電型・自然共生型・木材利用型・資源リサイクル型」など、八つの条件のうち七つの条件を満たしており、環境教育の発信拠点校として、先導的な役割を期待されている。

▲ 完工・開校式

▲ 南中・翔南中の学区地図　羽根小学校の南を走る県道326号線が境界線の基本となる。

エコスクール翔南中学校　環境を考慮した学校

武道場屋上のプール

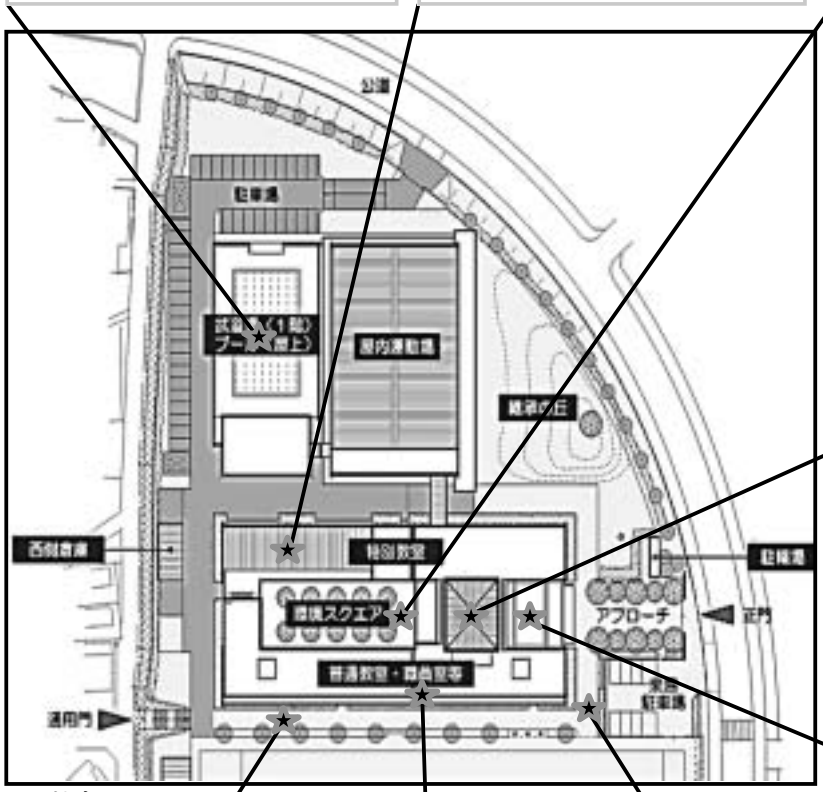
▲ 武道場の屋上にプールを設置することで，校地の有効利用がなされている。

太陽光発電

▲ 屋上の太陽光パネルで約20キロワットの電気が発電できる。これは10教室分の電気量に相当する。

再生木材の利用

▲ 風と光を取り入れた中庭。床に、廃木材と廃プラスチックを利用することで，循環型社会に貢献する。



▲ 校舎配置図

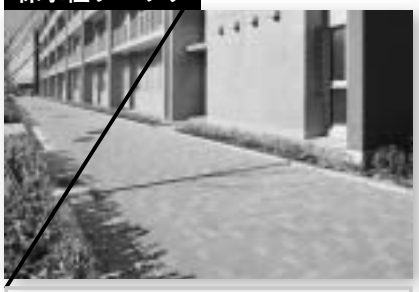
風の塔

▲ 1階から最上階へ続く吹き抜け空間を利用して，暖気を外部に排出する室内環境を作る。

屋上緑化

▲ 屋上の緑化によって冬の断熱効果を高め，夏の室内温度の上昇を緩和する。

保水性ブロック



▲ ブロック内部に雨水を貯留することで，地熱を下げ気温の上昇を抑制する。

地元産木材利用

▲ 地元産の杉や桧、間伐材を利用することで，地域産業への貢献をし，森林資源の有効活用をする。

風力発電

▲ 風力で発電したエネルギーを夜間照明灯に利用し，電気使用量の削減をする。

● 教科書採択

○教科書展示会の開催

教科書展示会が、県内二十一か所の教科書センターで開催される。

県教育委員会では、県民の教科書に対する理解や関心を深めるために、教科書展示会を開催する。なお、障がいのある児童・生徒の教科書については、愛知県総合教育センターで展示する。

岡崎地区の教科書センターは、岡崎市中央図書館にある。展示会も、中央図書館で行われる。展示会場には投書箱が用意されている。教科書に対する意見や要望を投稿することができ、教科書について広く意見を聞く場となっている。

・展示会場（岡崎教科書センター）
岡崎市中央図書館
岡崎市康生通西四―七十一
TEL二三―三一一一

・展示期間
平成二十五年六月十一日（火）～七月五日（金）
※休館日を除く

・展示教科書
検定済みの教科書

○本年度の教科書

小学校は、平成二十二年度に採択された。平成二十三年より新しい教科書を使用しており、今年度で三年目となる。

中学校は、平成二十三年度に採択され、昨年度より新しい教科書を使用している。

○教科書改訂の予定

次の教科書採択は、小学校は平成二十六年、中学校は平成二十七年の予定である。使用開始は、それぞれの採択の次の年になる。現教科書は、今年度を含め、小学校では二年、中学校では三年使用される予定である。

● 副読本等について

○小学校三・四年生評価問題CD―R

小学校郷土読本「おかざき」の全面改訂に伴い、それに対応した評価問題が作成された。

ついては、評価問題CD―Rが各校二枚配付されたので、各学校で活用促進を呼びかけたい。

なお、評価問題については、社会科部のホームページにも掲載されている。

○平成二十五年度版岡崎市環境学習プログラム

環境教育研究委員会は、従来の環境学習プログラムを改訂し、平成二十五年度版岡崎市環境学習プログラムを発行した。

各学校の教務主任宛に配送されているので、積極的に活用したい。

○道徳読み物資料「夢をつむいだ人々」

道徳部は、郷土岡崎の偉人八人を取り上げた読み物資料を発行した。

各学級一冊が道徳主任に配付されているので、積極的に活用したい。

なお、資料、活用例ともに道徳部のホームページに掲載されている。

○ESDへのアプローチ②

授業改善委員会は、「ESDへのアプローチ②～持続発展可能な社会の担い手を育てるために～」を発行した。

学校用一冊と学年用各一冊が配付されているので、ESDの推進に役立てたい。

● 表　彰

◆第15回日本ジュニア管打楽器コンクール（全国）

アンサンブル部門金管の部銀賞
北中学校

ソロ部門サクソフォンの部銀賞
竜海中三年　小林　佳生

◆第14回創作童話・絵本・デジタル絵本コンテスト（全国）

創作デジタル絵本部門児童生徒の部優秀賞
竜海中二年　村本　勝哉

◆第25回管楽器個人・重奏コンテスト本大会（東海）

サクソフォン独奏　優秀賞
北中二年　松橋亜里沙

クラリネット独奏　優秀賞
竜海中三年　篠田亜由海

サクソフォン八重奏　佳良賞
竜海中学校

● 平成二十五年度校長会役員

〈小中学校長会役員〉

会　長　板倉　登（竜美丘小）
副会長　市川　松男（秦梨小）
　　稲垣　幸一（北　中）
　　塩澤　順治（福岡中）
顧　問　岡田　豊（井田小）
　　鈴木　栄二（矢作北中）
会計監査　天野　道晴（大樹寺小）
　　稲吉　治（岩津中）
庶　務　野田　光宏（竜海中）
　　太田　恭子（連尺小）
庶務補佐　内田　義和（葵　中）
会　計　増澤　徹（岡崎小）
　　加藤　政幸（翔南中）
会計補佐　澤田　祥明（六ツ美北部小）
評議員　藤井　哲也（美合小）
　　金澤喜久雄（福岡小）
　　丸尾　光司（常磐南小）
　　木島　節男（岩津小）
　　柴田　輝夫（矢作西小）
　　岩月　茂仁（夏山小）

荻野　嘉美（形埜小）
平木　教男（下山小）
山田　禮子（根石小）
山口　和雄（矢作南小）
内田　幹也（六名小）
鈴木　尚子（河合中）
伊藤　直也（城北中）
海藤　茂実（東海中）
藤原　照郎（常磐中）
近藤　博之（矢作中）
平岩　和博（額田中）

〈小学校長会〉
会　長　市川　松男（秦梨小）
副会長　天野　道晴（大樹寺小）
　　木島　節男（岩津小）
会計監査　金澤喜久雄（福岡小）
庶　務　太田　恭子（連尺小）
会　計　内田　幹也（六名小）
会計補佐　鈴木　実俊（藤川小）

〈中学校長会〉
会　長　稲垣　幸一（北　中）
副会長　塩澤　順治（福岡中）
　　稲吉　治（岩津中）
会計監査　鈴木　尚子（河合中）
庶　務　内田　義和（葵　中）
会　計　加藤　政幸（翔南中）
会計補佐　永田　勲（竜南中）

〈専門委員会長〉
法　制　近藤　博之（矢作中）
教育条件　加藤　政幸（翔南中）
学校経営　稲吉　治（岩津中）
進　路　柵木　智幸（六ツ美北中）
保　体　鈴木　実俊（藤川中）
福　安　高橋由美子（山中小）
給　食　鈴木　尚子（河合中）
生徒指導　小嶋　利之（甲山中）
特別支援　山口　和雄（矢作南小）
広　報　山田　禮子（根石小）

●平成二十五年度特別委員会

平成二十五年度は以下の十二委員会を置き、岡崎市の教育活動の充実・発展を図る。

・月報「岡崎の教育」編集委員会
長　山田　禮子（根石小）
副　伊豫田　守（愛宕小）
・教員の研修に関する委員会
長　荻野　卓寛（北野小）
副　杉田　吉男（新香山中）
・学校環境緑化推進委員会
長　本田　浩登（上地小）
副　松崎　出（羽根小）
・情報教育推進委員会
長　内田　義和（葵中）
副　永田　勲（竜南中）
・郷土読本編集委員会
長　増澤　徹（岡崎小）
副　内田　尚之（常磐東小）
・授業改善委員会
長　丸尾　光司（常磐南小）
副　蜂須賀　渉（男川小）
・英語が話せるおかざきっ子研究委員会
長　柵木　智幸（六ツ美北中）
副　十河　幸代（恵田小）
・学校評価委員会
長　山本　満夫（六ツ美南部小）
副　和田　実（美川中）
・環境教育研究委員会
長　内田　幹也（六名小）
副　市川　敏彦（生平小）
・科学の心を育てる委員会
長　鈴木　武（細川小）
・外国人児童生徒教育推進委員会
長　金指由香里（城南小）
・教員免許更新特別委員会
長　中村　公治（竜谷小）
その他の関係委員会等
・岡崎市就学指導委員会
長　栗田万砂夫（矢作東小）
副　武田　正道（大門小）
・岡崎市特別支援教育連携協議会
副会長
　　山口　和雄（矢作南小）
推進委員
　　澤田　祥明（六ツ美北部小）
・岡崎市いじめ・不登校対策協議会
長　小嶋　利之（甲山中）
副　近藤　博之（矢作中）

●平成二十五年度研究発表校

今年度の研究発表校は、市委嘱の発表校が二校、自主発表校が二校である。また、二校が授業公開を行う。

・常磐南小学校　市委嘱
十月十六日（水）
「未来へつなごう！常南のころ　―ＥＳＤの視点に立った教育活動の展開―」

・六ツ美中部小学校　市委嘱
十一月二十二日（金）
「明るい未来をひらく六ツ美中部の子の育成　―環境学習を基盤にしたＥＳＤの推進―」

・本宿小学校　自主
十月十一日（金）
「生きる力を育む小学校英語の創造2013　～英語が話せる本宿っ子をめざして～」

・竜海中学校　自主
十一月十三日（水）
「自ら学び、表出する生徒の育成　―コミュニケーションを取り入れた教科学習を中心に―」

・葵中学校　授業公開
十月二十二日（火）
「学び合い・磨き合いを軸にした思考力・判断力・表現力の育成　―ＩＣＴの幅広い活用法と生徒が自ら求めてＩＣＴを活用する場の追究―」

・連尺小学校　授業公開
二月十四日（金）
「コミュニケーション能力を生かした算数科の授業」

●平成二十五年度学校訪問

◆岡崎市教育委員学校訪問
・美合小学校　五月十三日
・羽根小学校　六月十三日
・翔南中学校　六月二十四日
・六ツ美南部小学校　九月九日
・井田小学校　九月二十六日
・城北中学校　十月十日
・矢作北小学校　十月二十一日
・矢作南小学校　十一月十四日
・男川小学校　十一月二十八日
・常磐小学校　一月十六日
・小豆坂小学校　一月三十日

◆指導員合同訪問
・豊富小学校　六月二十日
・美川中学校　六月二十日
・愛宕小学校　十一月二十一日
・矢作中学校　十一月二十一日
※その他に主事訪問を予定

わらび採り

（平成７年）

写真提供：常磐中学校

自然に親しみ、級友との交流を深めるために、生徒会が主体となり、ワラビ採りを行ったときの写真である。収穫量は約十キログラム。採ったワラビを一本一本、大きさをそろえながら選別し、ＰＴＡ総会で販売した。収益は、体育大会の応援物製作や生徒会行事の活動資金に充てていた。その後、わらびを採集する場所の確保が難しくなり、数年後に途絶えた。

アルミ缶回収やベルマーク収集などを行い、児童生徒のボランティア意識を育てている小中学校は多い。そこで得た資金は、児童会や生徒会の活動に充てた。しかし、最近では、それらを他への支援に送ることが多くなった。

常磐中学校でも、現在はワラビの代わりに「土鈴」や生徒のデザインした「常磐中キャンディー」を販売して、米山寮や福祉協議会に寄付している。

・カット　根石小　山口泰代

オアシス

おいしい食事には、さまざまな人の思いが詰まっている。生産者や加工する人、運搬する人、調理する人など何百、何千もの人が関わり、食物は私たちの口へ届けられる。片岡牧場を訪れ、そのことのありがたさが心に染みた。

自分の命が多くの人に支えられていることを、ぜひ子供たちに伝えたい。

新星「翔南中」が、春咲の丘に誕生した。エコスクールという新しい理念を抱き、自然エネルギーを活用し、自然と共生する新たな試みがなされている。子供たちは、人間も自然の一部として自然の中で生かされている存在であると、日々の生活から、環境教育から学ぶであろう。岡崎の教育が、新たにスタートする。

新たな人間関係を築き始めた子供たち。運動会や総合体育大会といった大きな行事に向けて共に懸命に取り組むことで、その人間関係はより広がり、深まっていくことだろう。新たな人との関わりが、さらに子供を成長させる。私自身もその成長の一助となれるように励み、また、成長していこう。

清々しい青空の下、荒（いらか）の波は減り、屋根も随分と高くなってしまった。しかし、「大きく育て」と子供たちに託す願いは、今も昔も変わらない。大切にしたい風景である。

＊働く、ということ　佐藤　仙務
彩図社　¥1,260

この一文

僕たちのような重度障がいを持ち，働く場所のない障がい者を雇用したい。

「ホームページ・名刺制作なら合同会社『仙拓』」。脊髄性筋委縮症という難病を患いながらも，19歳で社長となった著者の会社のウェブサイトは，こう始まっている。

寝たきりで介護が必要な重度障がい者の著者であるが，自立心が強く行動力があり，小学生の頃から会社に入って働く自分の姿を思い描く。

彼が会社を立ち上げるまでの軌跡の中に，働く意味，生きる意味，人生の意味を考えさせられる１冊である。

＊宮本式・ワンランク上のサッカー観戦術　宮本　恒靖
朝日新書　¥756

＊逆説！エコの常識　武田　邦彦
アスコム　¥1,050

＊そなえ 35歳までに学んでおくべきこと　野村　克也
大和書房　¥1,470

六ッ美西部小　小田　昌男